

398.8
KA86
㊦

防空新書
第二

幹部教育の實施法に就て

加藤義秀述



0057962000

0057962-000

398.8-Ka86ウ

幹部教育の實施法に就て

加藤義秀・述

大日本防空協会

昭和20

AJH

納本

973
282

の育教部幹
て就に法施實

佐大軍陸・謀參部令司總衛防

述・秀義藤加

2書新空防

398.8
KA86

目次

はしがき

第一、幹部教育には如何なる方法があるか……………一

第二、講義、講話、會同研究、課題作業、見學……………二

第三、圖上訓練、兵棋、現地研究、幹部實設演習、實員指揮……………四

 其の一、想定、情況……………七

 其の二、問題と原案……………一五

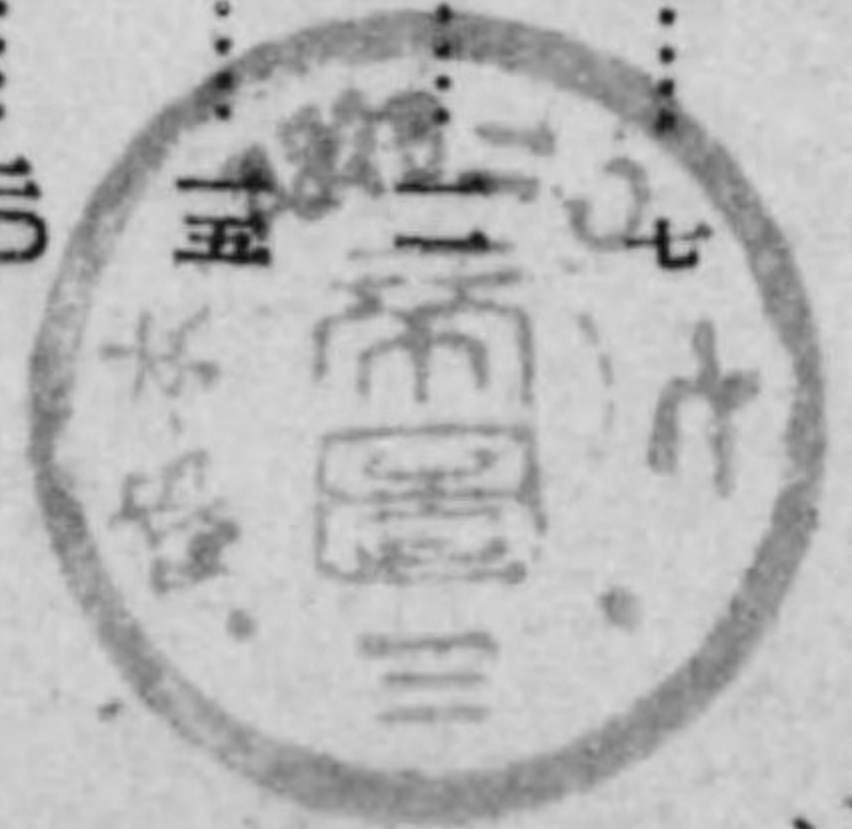
 其の三、統裁官と統裁……………二五

 其の四、演習員……………三〇

 其の五、講評、所見……………三三

 其の六、圖上訓練……………三三

 其の七、兵棋……………三六



二

其の八、現地訓練……………三〇

其の九、幹部實設演習……………三四

其の十、實員指揮……………四〇

第四、ひすび……………四三

幹部教育の實施法に就て

防衛總司令部參謀
陸軍大佐

加藤義秀

はしがき

防衛實施上防衛諸機關幹部の能力が極めて重要な要件であることは云ふ迄もないことで、幹部の能力向上に關しては既に久しく強調せられてゐる所である。

幹部の能力向上の爲には各種の方法があり、特に之が教育訓練を重視しなければならぬのであるが、此の教育訓練に於ては、徒らに時間をかけても其の方法が適切でなければ十分効果を收めることは出来ない。従来各所に於て行はれて居る教育訓練には、目的も不明瞭で實施亦適切を缺くものも少くない様である。特に教育の實施方法に就て研究を要する所以である。

第一、幹部教育には如何なる方法があるか

一、幹部の教育には種々の方法があるが通常行はれるものは講義、講話、會同研究、課題作業、見學、圖上訓練、兵棋、現地研究、幹部實設演習實員指揮等であらう。此等幹部の教育は各職務に應ずる個人の識能を向上すると共に、更に部下に對する教育技能を附與することを目的とする。

二、幹部教育の爲如何なる方法に依るべきかは、各種方法の有する特性を考慮し教育の目的、被教育者の素質程度、教育の爲利用し得る施設等に應じて之を決定しなければならない。

三、各種教育方法には各一長一短があり、單に一方法のみを以て教育の目的を達することは出来ないであつて、此の爲には各種の方法を適用しなければならぬ。併し此の種教育の終局の目的は、各種の状況に處して幹部としての實際業務、實員指揮に關する能力を向上することにあるのであつて、教育に方つては常に之を目途として實施しなければならぬ。其の他の各種教育は畢竟之が爲の準備又は補助に過ぎないと云ふことを銘肝すべきである。即ち徒に理論に走り教育の爲の教育に墮せぬやう特に戒めなければならぬ。

第二、講義、講話、會同研究、課題作業、見學

四、講義、講話、會同研究、課題作業は主として原則的事項を理解修得せしむることを目的としてゐる。

五、講義は教官が被教育者に所要の事項を説明するものであつて、廣く一般事項を知得せしめることは出来るが之を深刻に徹底せしむることは出来ない。之を行ふ場合には特に注入教育となるの弊に陥らぬやう注意し、勇めて啓發的に問答式方法を混へ、理解を的確にし深刻に修得せしむることが必要である。

六、講話は通常専門的有能者を招聘してその蘊蓄を聴き、識能の向上に資するものであつて勉めて之が機會を求め實施すべきである。

七、會同研究は特定の研究課題を設け各々其の研究せる結果を發表し知識を交換すると共に更に相互に之を討究し研究を深刻ならしむるものである。

八、課題作業は課題を設けて研究作業を實施せしむるもので、通常各個人の教育を目的とする。併し更に各個人の研究せる結果に基き會合研究を行へば研究を一層深刻ならしめると共に廣く之を普及することが出来る。

九、會同研究、課題作業は教育の内容に於て自ら範圍を限定せられる憾はあるが、深く之を研究

せしめ得ると云ふ利益がある。さうして其の成果は研究問題の如何に關係することが極めて大であつて、教官は最も價値ある問題を選択するやう注意しなければならぬ。

研究作業は各自の修得を深刻ならしめる爲、勉めて個人作業とするのが有利であるが、問題の性質、被教育者の状態等によつて合同作業とする場合もある。又研究作業を命ずる場合には、特に必要な時間の餘裕を與へ十分なる研究を積ましめる著意が肝要である。

一〇、講義、講話、會同研究、課題作業等を行ふ場合には勉めて實地實物に就き、或は圖上により又は模範を示す等の手段を利用し理解を容易にし、且深刻に徹底せしめることが必要である。

一一、見學は理論的説明並に研究を補ふ爲極めて有利であるから、機會ある毎に之を實施する如く勉むべきである。

見學を實施する場合には豫め豫備知識を與へて置くことが必要である。何等の豫備知識なく漫然實施する見學は効果が極めて少い。特に計畫並準備を周到にし死節時を省き、克く其の目的に合致する如く内容及實施の方法を適切にすることが肝要である。

第三、圖上訓練、兵棋、現地研究、幹部實設演習、實員指揮

一二、圖上訓練、兵棋、現地研究、幹部實設演習、實員指揮は狀況に基き主として應用能力を訓練することを目的とする。

一三、如何に平時的事務に慣れた者でも、空襲時のやうな突發的非常事態に臨むと常に必ずしも機を失せず適切なる處置を取り得るものとはいへない。空襲時等に於て生起すべき状態は千變萬化で、一定の形式を以て事務的に處理出來ないことが多く、而も迅速な處理を必要とする。單に理論的に防衛業務に關する知識が豊富な丈では役に立たぬのであつて、幹部は臨機其の時の狀況に適應する處置を取り得るやう特に應用能力を向上し、場合によつては獨斷よく機宜の處置を執り得る迄になつて居なければならぬ。

一四、第一に述べた講義等の各種方法は、知識を與へ防衛業務に通曉せしむることを目的とし、今茲に述ぶる圖上訓練以下の方法は特に應用能力に關する鍊磨を目的として居る點に本質上の差異がある。此の點よく考へて置かぬと實施が適確に行かない。

知識を與へるには一通り理解させ、又之を覚えさせれば目的を達するわけであるが、應用能力附與の爲には各種の狀況の下に反復鍊磨しなければならず此の訓練には際限がないのである。

防衛に關する知識は勿論實際業務なり訓練なりの基礎であり、訓練によつて知識は更に廣く深刻

978
2482

となるのである。

一五、知識を與へる爲には教育の内容は即ち教育の目的であるが、訓練に於ては其の内容は必ずしも悉く教育の目的ではない。即ち訓練で設想する状況は其の儘實際に現はれることはないからである。勿論訓練でも勉めて實際起きさうな状況を設想し之が對策などを研究するのではあるが、決して之を教へたからとて目的の全部を達して居るのではない。之を通じ他の如何なる状況に遇つても適切に判断し、實行し得る無形的能力を附與しなければならぬのである。之が爲極言すれば訓練で設想する状況並に之に基く研究は、必ずしも教育の目的其の物ではなく一の方便に過ぎないと考ふべきである。場合によつては、或る訓練の研究を基礎に其の儘實際に適用すれば却て適切を缺くといふことさへある。

一六、訓練は想定、状況を設け、統裁官の演習員に對する統裁活動を以て實施する。

圖上訓練、現地研究等に於ては情況に基く問題、統裁官の之に對する原案を以て實施の骨幹とし兵棋、幹部實設演習、實員指揮等に於ては情況に基く演習員の處置、活動と統裁官の之に對する講評とを以て實施の主體とする。

其の一、想定、情況

一七、想定情況は訓練の便宜の爲設想假定する或る状況である。

想定も情況も同じく假想の状況であるが想定とは研究又は演習の出發に方り其の基礎條件として統裁官が演習員に對し必要の事項を約束するものであり、情況とは其の基礎條件の下に逐次發展推移する状況をいふのが通常である。小範圍で簡単な訓練をする場合などには強ひて想定情況などの區分をする必要がない。直ちに情況として訓練を行ふこともある。〇時〇分何地區空襲警報發令」之れだけで訓練の基礎條件ともなる。之は想定といふ大袈裟なものではなく、いきなり「情況」でいふのである。

一八、訓練を行ふ場合、統裁官は先づ如何なる想定情況の下に之を實施するか苦心するのである。

想定、情況に於て其の内容を如何にするかは、訓練の目的に應じ之を決定しなければならぬ。想定、情況は假想の状況なので如何なる事にも差支なきわけなるも訓練の目的を度外視したものは何等の價値がない。又奇想天外的の情況も考へられるのであるが想定、情況は之によつて自ら實際

に生起する様な状況並に情況の推移などを教ふべきもので重要な教育内容を有つて居ることを忘れてはならぬ。従つて勉めて合理的であることが必要であり、又彼此關聯一貫性を有するものでなければならぬのである。之が爲めには實際生起した過去又は他方面の史實を基礎とし之を参考にして作爲するを可とする。

一九、想定に具備すべき要件並に之が作爲上考慮すべき事項概ね左の如くである。

イ、防衛の爲には敵に關する事項又は防衛の對手となるべきものを示さねばならぬ。

平時に於ては敵國や其の空襲準備、空襲の危険度などを假想することが必要なのであるが、現在では強いて假想を要しない現下の状況其の儘を訓練の基礎状況とすることが出来る。即ち「一般の状況現在の通り」で既に一基礎條件をなして居るのである。

ロ、状況上に於ける演習員の立場を明かにしなければならぬ。之が爲には全般の環境、行動の基準となすべき任務、其の場面に至つて経緯比隣の關係などが必要である。

ハ、想定は次々に状況が發展する基礎なので之が爲に必要な條件は備へなければならぬ。状況の進むにつれ逆戻りして基礎條件を追加したり修正したりする様なことのない様注意を要する。之が爲には豫想する状況の發展を考へ又は之を計畫して基礎條件に缺けた所がないか如何かを反省して

見ることが必要である。

ニ、特に全般の關係を教育せんとする場合の外訓練や研究に關係なきことを列べ故らに想定を複雑にすることは意味がない、所要の條件さへ備へれば勉めて簡單にするを可とする。

ホ、敵性其の他各方面の状況に關し演習員が實際の場合に於て知り得べからざる事項迄廣く之を示すは一考を要する。例へば下級の幹部などを教育する場合「敵の航空母艦何隻が何處に近接しあり」などと示すが如きは實際の場合に於てかゝることは知り得ず、状況不明の裡に活動するものなるに鑑み、其の心構へを差異あらしめるもので適當ではないのである。即ち演習員の立場に於て知り得る範圍の状況に止めるのを可とする。

ヘ、研究上已むを得ず假想を設けることあるも勉めて之を避けることが必要である。例へば「此の家はないものと假想する」とか「此處に貯水池があるものと假想する」とかの如きことは實感をなくし訓練などの價值を大いに減ずるものであることを心得て居なければならぬ。

二〇、情況は想定に基き發生して來る現象で研究、訓練の基礎をなすものである。時間の経過と共に發展變化して行くのであるが、如何に變化し如何なる状況を現はすかといふことは統裁官の技能である。之が爲統裁官は豊富なる現象認識が必要である。

情況作爲に方つては概ね左の事項を考慮しなければならぬ。

イ、情況の難易を如何にするかは演習員の能力に應じ之を決めなければならぬ。演習員の能力も考慮せず徒に複雑困難なる情況を與へ演習員を困らせることは注意を要する。單一簡單なる情況より逐次に複雑困難とし訓練の度を進めることが必要である。

ロ、情況は訓練の目的に應じ考へなければならぬ、即ち單に一般的事項を一通り實施せんとする場合、特に判断力、應用力、獨斷能力、迅速なる決心、處置等を訓練せんとする場合などにより之に適する様に工夫することが必要である。訓練の目的を達するか否かは主として此の情況の作り方如何にあるのである。

ハ、訓練の度が進むに従ひ狀況には勉めて波瀾曲折を生ぜしめることが必要である。單純な情況のみでは幾度繰返しても眞の能力は附與せられない、之が爲矛盾撞著せる情報も考へられるのであるが誤情報でない限り内容には一貫性を有たせなければならぬ。

ニ、一つの現象を設想した場合之を如何なる程度に又如何なる方法で示すかは又大いに工夫を要するのである。

業務を實施する爲の基礎條件を悉く列擧するならば演習員の之に基く作業は些程困難でなく訓

練の効果は少い、實際の場合に於ては情報が遅れたり、不明であつたり、矛盾撞著があつたり常に不十分な條件の下に業務を實施しなければならぬので情況も亦勉めて此の如きことを考慮し、或は一部を示して他を推測判断せしめ或は内容を不明としたり、ぼかしたり、或は故らに障害を設けて當然知り得べきものも知得せしめなかつたりなど種々工夫することが必要である。時には其の時の研究や訓練には考慮に入れなくてもよい事迄も示して思索を混亂せしめる様なこともある。

ホ、演習員に示すべき情報は地域的、時間的關係を無視したものは適當でない。演習員の地位に於て限られた時間内に知り得べき範圍に止むべきである。

ヘ、情況は演習員の處置に應じ推移變化せしむることがある。訓練が進歩し且統裁官の技倆が優秀であれば訓練は之によつて愈々實際的となり活氣を生じ其の價値を大ならしめるのである。併し通常は豫め訓練の目的に合するやう一貫した計畫を樹て置くことが必要である。

其の二、問題と原案

二一、訓練に於て如何なる問題を演習員に與へるか、問題の捉へ方如何は訓練の成果を著しく左

右するものである。情況と問題とは彼此關聯を有するもので計畫に方つは先づ研究、訓練の目的を定め之に適する問題を考へ次に之に應ずる情況を工夫するのが順序であるが、又情況を考案して居る間に適當な價值のある問題が生れて來るもので、巧みに之を捉へる著意が必要である。殊に兵棋、幹部實設演習などの場合には情況の推移に従ひ統裁官は適時適切なる問題を捉えなければならぬのである。

二二、問題の出し方も演習員の能力、訓練の目的に従ひ種々工夫を要する。又常に同じ様な型の問題許りでは演習員の興味もなくなるので此の點も考慮して置く必要がある。

問題は通常決心、處置、情況判斷、計畫、命令（指示、通牒）等實際業務を處理する爲に必要な内容を適宜區分した形で示すものである。問題を與ふるに方り演習員に如何なる基礎事項を與へて置くかといふことも研究の目的、演習員の能力により差異がある。例へば一の指示とか通牒とかを起案させるにしても先づ情況判斷や處置などを問題とし豫め十分研究し其の上で單に表現の方法だけを訓練する場合もあれば、いきなり何等の研究なく起案させて情況判斷や處置なども併せて問題の對象とする場合もあるのである。

二三、問題の題意そのものは明瞭にしなければならぬ。答解を困難にする爲には情況を六ヶ敷し

くすべきで問題の題意其のものを難解にし困らせる如きは注意を要する。

二四、決心は或る情況に臨んで、何事かをなさんとする場合に先づ腹を決める、之をいふのである。此の決心に基いて實行の爲具體的手段が生れる、之を處置といふのである。

情況判斷といふのは其の場に於ける各種の要件を考慮して任務達成の爲如何にすべきやを判斷することである。

計畫、命令、通牒、指示等は説明する迄もなく實際業務に行はれて居る通りである。「決心は確固たる信念を示すもので「〇〇〇セントス」の表現を用ひ情況判斷には「判決」といふ形で「〇〇〇スルヲ要ス」と記述させる。

決心、情況判斷には之に對する理由及び之に伴ふ處置を答解せしむるを通常とし、場合によつては決心、判決のみとし或は決心、判決に理由又は處置のみを附加することもある。

二五、答解は文章、表、要圖、口答などによつて求める。文章には單に項目を並べさせる様なこともあれば正式の公文様式などを練習させる目的で特に之を要求することもある。

又要圖は空襲時など多忙の時報告、通報等に利用價值が大なので勉めて之を練習させることが必要である。

二六、答解の爲め幾何の時間を與ふるかはまた訓練の目的や演習員の能力に應じ答解の分量を考慮して之を決めるのである。

深刻に研究せしむる場合、特に能力の低きものに對しては十分な時間を與へねばならぬのであるが、訓練の進むに従ひ實際に業務を處理する爲の時間を顧慮し其の期限内に於て答解せしめ漸次實務に即する様にしなければならぬ。

二七、原案は問題に對する統裁官の考案である。原案は演習員に其の問題に應ずる結論的準據を與へるもので原則として最良の案であり、又模範的答解たるべきである。之が爲統裁官はあらゆる角度から各種の考案を研究し原案を決めるのである。訓練の開始に方り原案を決めず演習員の案を研究し其の最良なるものを以て研究の結論とする様なこともないではないが、凡そ問題を提供する場合には確固たる考への下に原案を準備して置くのを原則とすることが必要である。これに依つて始めて目的ある教育が出来るのである。但し原案が獨善的となり演習員に十分納得せしめ得ないものにならぬ様特に注意を要する。

原案は最良の案たるべきこと前述の通りであるが、統裁官が實務上指揮官たるべきやうな場合には其の主義方針に基いて之を決めることも必要である。即ち内容に於て利害得失大差なき各案があ

りとした場合、指揮官の性格や主義により其の何れかを採用することになるのである。統裁官は訓練に於て其の主義を明かにして置けば部下の者は指揮官の氣持をよく諒解し得るので實際の場合、獨斷的に業務を実施するのに極めて有利である。

其の三、統裁官と統裁

二八、統裁官は訓練、演習實施の中心である。如何に演習員を啓發して其の能力を向上するか又演習などの實施に於て如何に活氣あらしめるか退屈せしむるか之等皆統裁官の計畫並に其の統裁實施の如何に係つて居るのである。

二九、統裁官は演習員よりも能力が優秀でなければならぬ。之が爲には統裁官たるものは常に先づ自ら研鑽を積み其の智能を向上して置かねばならぬのである。

訓練の成果は演習員が統裁官に絶対信賴することによつて始めて求められるのである。此の信賴は人格識見に於て常に演習員を敬服せしめ得ることによつて之を期待し得る。併し防衛業務の全部に亘り深く通曉することは甚だ困難で之が爲必要に應じて補助官を使用する。

三〇、訓練や演習を実施するには、統裁官は先づ綿密なる計畫を樹てねばならぬ。豫め十分なる

研究をなし周到な計畫を以て臨む時は實施は必ず圓滑に效果ある如く行くのである。

統裁官の熟練となるに従ひ、大體の計畫で現況に即しながら適宜に統裁して行くことも出来るやうになるのであるが、然らざる場合には常に計畫を怠つてはならぬ。

三一、訓練は統裁官一人で實施する場合もあるが、通常計畫竝に實施の助手として補助官を使用する。又特に演習の種類や規模に依り所要の人員を以て統裁部を編成する。

三二、統裁の實施に方り考慮すべき事項は概ね左の如くである。

1 統裁は常に十分なる權威を保ち嚴正に之を行はねばならぬ。嚴正を缺く統裁は訓練を無秩序とし、又統裁官の意圖を演習員に滲透することが出来なくなるのである。

2 統裁官は演習員に取つては假設敵ともなるのである。或は敵機となり或は爆彈となり、或は火災ともなる。此の様に於て演習員を訓練するには毫も苛責なく苛烈でなければならぬ。即ち敵によつて起される現象は常に遠慮なく苛酷なものである。甘い狀況で訓練しては實際の役には立たぬので、此の點統裁に方つても十分考へなくてはならぬ。演習員の苦境に陥るのを援けんが爲、豫め情況を知らせて準備せしめるなどの事は嚴に慎まねばならぬ。

3 教官としての溫情を忘れぬ様にしなければならぬ。統裁は嚴正で且強く演習員を訓練しなければならぬのであるが、統裁官は常に教官として演習員を教へて居るのである。故に常に溫情を以て之を導くことが必要である。

4 演習員各種の考案等に對しては其の信念の度を確めることが必要である。演習員が若し原案と同じ考案をなした場合と雖も、其の信念の度が薄かつたならば實行に方り多少の障礙にでも會へば忽ち動搖するのである。之に反し多少考案に缺陷があつても、信念がしつかりして居れば却つて實行力は強いのである。そこで訓練では實務に際し確固たる信念を以て實行し得る様に、人格も能力も養つて置かねばならぬのである。

5 演習員をして十分其の能力を發揮させなくてはならぬ。之を窮地に陥れ、畏縮させるやうなことのなきやう注意を要する。情況を困難にし、或は信念を確める爲飽く迄之を追究し演習員をして手も足も出なくなるやうにすることは戒めなければならぬ。之によつて演習員は統裁官の前に畏縮し自信を失ふに至るからである。却つて訓練上害がある。

6 自己の信念を透徹しなければならぬ。

原案に於ては指揮官などとして自己の主義をも徹底することに著意すべきことを前述したのであるが、統裁に方つては十分信念を透徹するやうに努めなければならぬ。併し十分自信のなきこと

を無理に押付け演習員の考へなどを抑壓することを慎まねばならぬ。不明なことは更に研究するの態度が必要である。

7 常に訓練の目的を反省することが必要である。

統裁に熱中し演習員の應對に捉はれて居る裡に、動もすれば訓練目的以外の方向に引き摺られて行くことがあるものである。此の如き場合、よく訓練の目的を反省し常に之に立ち歸ることが必要である。

8 演習員の状態に常に注意し特に之を状況中の人たらしむるに勉め、其の状態に應じ變轉自在の統裁法を工夫しなければならぬ。

如何に綿密な計畫でも、實施に臨んでは演習員の能力や氣分にびつたり來ぬことがあり、又統裁のやり方により訓練、演習が圓滑を缺き演習員の活動が不十分となつたりすることがあるのである。特に訓練や演習に於ては、演習員をよく状況中の人たらしめなければ成果が少い。統裁官は如何にして演習員を状況中の人たらしむるかに苦心しなければならぬ。常に演習員の氣分や状態を敏感に察して計畫を變更したり、統裁法を工夫したりしなければならぬ。

9 演習員を萬遍なく活動させるやう勉めなければならぬ。訓練や演習に方つては動もすれば一部

の演習員のみ活動して他の者が手持無沙汰に終ることがある。

演習員を萬遍なく活動させることは、統裁上中々困難なことではあるが統裁官は常に此の著意を忘れてはならぬのである。

10 時間を有効に使用することが必要である。計畫が杜撰であつたり、統裁が圓滑を缺いたりして死節を生じ訓練や演習に情氣を起させ又徒に時間を空費して訓練の爲の實働時間が少いといふやうなことになるやうな注意を要する。時間を巧みに有効に使用することは統裁上大いに技倆を要することであるが、動もすれば訓練の内容などに捉はれ閑却せられ易いので特に注意しなければならぬ。

11 統裁部を設けて訓練や演習を統裁する場合には、統裁部の活動が不統一にならぬやう特に一體的活動を必要とする。之が爲には統裁部の職員はよく統裁官の意圖を諒解しあることが必要で、計畫準備に方り十分なる打合せを行ふと共に、實施に方つても絶えず密接に連繫し統裁上毫も齟齬なからしめぬやうにしなければならぬ。統裁部が各所に分置せられるやうな場合特に然りである。

12 一人の統裁官が統裁し得る人員は、演習の種類により差異があるが、圖上訓練等で各種の考案

を求め又各人の作業をよく點檢し、個人的に徹底して訓練する爲には十二、三名が適當である。同時に教育する演習員は成るべく能力、素質同等のものが便であること勿論であるが、能力素質に差異がある場合には程度、内容を異にする問題を課することも必要である。

其の四、演習員

- 三三、訓練や演習に於ては單に統裁官の活動許りでなく、之と共に演習員の態度、活動の如何によつて其の成果を異にするのである。之が爲演習員として注意すべき事項概ね左の如くである。
- 1 積極自給的研究、活動が必要である。演習員は受身であるが單に統裁官の指示のみに俟ち消極受動に陥つてはならぬ。自ら求めて深く廣く收穫を得んことに勉めることが必要である。殊に演習員の數の多い時には統裁官の指導が徹底を缺き易いので益々然りである。
 - 2 演習の規律を嚴守しなければならぬ。演習などに於て其の規律を守らなければ、單に演習の實施を破壊する許りでなく、演習員自身の能力向上にも害があるのである。訓練上の成績を良好ならしめんとして、或は演習上の秘密を知らうと漁つたり或は單獨に作業すべきものを他と相談したり、或は連絡すべからざるものに連絡

したりなどするやうなことは大いに戒めねばならぬ。

- 3 研究に方つては虚心坦懐でなくてはならぬ徒に感情に走つたり、自己の面目に捉はれたりして研究や演習の活動にこだわりを持つて居ては、演習員の進歩向上を望むことが出来ない。虚心坦懐己を空しうして人の意見を聞くの素直な氣持が是非必要である。
- 4 研究は徹底的にし自己の考案や行動には十分なる信念を有する迄に至ることが必要である。課題に應じ其の場凌ぎにいい加減の考案をなし、又行動をするが如き無責任なることは最も戒めなければならぬ。
- 5 状況を眞剣に考へ勉めて情況中の人となることが必要である。統裁官の與へられる状況を基礎にして鍊磨するに方り、之を實際に即して價值あらしめる爲には常に其の状況を眞剣に考へることが必要である。空襲時の情況ならば其の慘然悽愴の状態を頭に浮べ、身を其の環境に置き眞剣なる責任觀念を以て之に對處するの心構へが肝要である。然らざれば幾度訓練を繰返しても所謂机上のものとなり實際の役には立たぬのである。

- 6 形を學ばず、眞の能力を養ふに勉めることが必要である。

訓練の要は自らの能力を向上すること前に述べた通りである。徒に形を學び其の精神を忽

にすれば實務に方り臨機即應の應用能力等は養はれないのである。常に情況に對處するの精神を捉ふる必要がある。

其の五、講評、所見

三四、訓練の種類によつては統裁官は演習員の實施につき講評し、又は所見を述べ爾後の研鑽向上の資とすることが必要である。

講評、所見は演習員の實施に關し是非、利害を述べて之を批評し、又は自己の意見を開陳するのであるが、其の内容及實施の方法は訓練成果に影響する所が大である。二、三の注意事項を左に述べる。

1、講評は通常演習終了後纏めて述べるのであるが訓練の實施中、機を失せず印象を深刻にし且的確に體得せしめる爲、適時所要の所見を述べることも必要である。注意を要すべき事を認め乍ら最後迄放任し後で講評するも教育の價値少いことがあるのである。講評、所見の實施は演習終了後、日時の経過するに従ひ、印象が薄くなるので成るべく演習直後を可とする。

2 講評や所見を述ぶるに方つては、單に演習員の實施につき可否を批評するに止まらず、具體的

に如何にすべきやを懇切に教ふることが必要である。

3 講評、所見は皮相の觀察によつてはならぬ。よく演習員實施の経緯、當時の狀況等を詳かにし十分之を斟酌して考察することが必要である。

4 講評、所見はよく要點を逸せぬことが必要である。要點なく事毎に所見を羅列するは適當でない。訓練の目的に従ひ豫め著眼を決めて演習員の實施を觀察し、之に副ふ如く其の内容を決めることが必要である。

5 講評、所見を述ぶるには徒に冗長に亘ることを避け、意のある所を判り易く簡明にすることが必要である。演習などにて演習員の疲勞せる場合など特に注意を要する。

其の六、圖上訓練

三五、圖上訓練は各種の狀況を圖上に於て考究し、之に應ずる策案等を研究鍊磨するのである。

圖上訓練は一般の防衛に關する狀況推移に就き概念を與へるのに便利であり、實員指揮などに比べて地域的にも内容的にも廣範圍に亘つて研究することが出來、更に研究に都合のよい且目的に合する狀況を以て教官の思想を十分徹底し、理論的には深刻に研究し得る等の利點がある。併し他方

實行の細部を十分に研究することが出來ず、又專習員は統裁官の提出する問題に應じて研究する爲、自發的に狀況を判斷し、自發的に決心處置の時機を捉へることがなく、此の訓練が不可能であり、且實際の場合に起る錯誤撞著情況不明に應ずる研究を十分に行ひ得ない缺點がある。

三六、圖上訓練では統裁官は專習員に對し、適當に研究問題を含むやうに情況を區切つて之を示し、之に應ずる問題を與へて研究せしめる。問題は通常各專習員同一のものとし提出せる答案に基き研究を進めて行くのである。

三七、統裁は專習員の答案を基礎とし、統裁官專習員相互の問答對論によつて實施するのであるが、之が爲統裁官は專習員の答解中より研究に適する案を摘出し研究の順序を決め、又それにより何を教ふべきかを準備して統裁に臨まねばならぬ。此の準備が不十分では統裁は不圓滑となり又專習員に的確に必要なことを體得せしめることが出來ない。

三八、問題に對する答解作業の時間は實際の時間に限定せず餘裕を與へて深刻に研究させることが必要で、場合によつては宿題ともするのである。併し訓練の進むに従ひ問題によつては逐次時間を短縮して實際的業務に近づかせることが必要である。

三九、多數の案から研究に適する案を摘出するには、先づ案を内容に應じて分類しなければなら

ぬ。此の分類は專習員を相互對論させる時にも役立つのである。次いで何れの案を研究對論の俎上に載せるかを決める。原案に近似せる案竝に之と反對の案、相互せる考案、着想の良い案、悪い案等を引き出すのであるが、何れにしても統裁官の意圖する教育内容が其の間に關聯を以て含まれて居ることが必要である。

之等の摘出した案を如何なる順序に引き合ひに出して行くかは色々工夫するのであるが、要は專習員をして順序よく理解を容易ならしめるにある。

四〇、情況は通常原案を基礎として推移させる。原案なしに統裁するやうな場合には專習員の一案を基礎とし、之によつて現はるべき結果を設想して情況を推移させるのである。

四一、問答對論を行ふに方つては統裁官が個人個人に就て、其の案の内容を問答により検討するか、專習員相互に討論させるか又は之等を混用するかするのであるが此の問答、討論を通じ專習員をして各自己の案の良否を自ら決らせるやうにするのが上手な統裁である。又各個人に就ては作業の缺點のみを指摘し、積極的意慾を抑へるやうなことは不可ない。成立する案ならば卒直に之を認め逐次良い方に導くことが肝要である。

四二、圖上訓練の爲の地圖は研究の目的に従ひ決めなければならぬ。細部の研究をなすに従ひ大

梯尺のものを使用し稍具體的研究をする爲には一萬分の一以上のものが必要である。又更に大梯尺の兵棋圖を用ひ示標を以て情況を現示しつゝ實施すれば一層印象を深くすることが出来る。

其の七、兵 棋

四三、兵棋といふのは大梯尺の地圖（兵棋圖）上に示標を動かし演習員が對抗的に勝敗を争ふもので作戦の將棋なのである。

兵棋には對抗兵棋と一方兵棋とがある。對抗兵棋は演習員を對抗し自由自在に處置せしめ統裁官は之を審判して行くのである。一方兵棋は統裁官が敵となり演習員は之に對して戦ふのである。對抗兵棋は敵味方各其の處置に應じて變化して行く處に特性があるのであるが、防衛上の訓練では此の如き場合が少い。従つて沿岸警備などの特種の場合を除き一方兵棋が通常適用されるのである。

四四、兵棋は漸次實員指揮に近似せしめ容易に之に移行せしめ得るが、研究の範圍は限定せられ且演習員全般に深刻な研究をさせることが出来ぬ。又此の統裁には統裁官の熟練なる技倆と十分な準備とを必要とする。

兵棋に用ふる示標は勉めて實際的感しを現はし得る様に工夫しなければならぬ。軍では一定の隊

標が出来てゐる。兵棋圖と示標とで現場の状況を實際的に現はすやうに勉めるのである。

四五、演習員には通常職務を命課し各其の職務に應ずる處置をなさしめるのである。即ち演習員が思ひ思ひの考へで處置し、相互關聯して業務を進めて行くので漸次實際的となるわけである。職務は必ずしも一人一役とは限らぬ。演習員の數と關係職の數により一人に二役數役を持たせることもある。但し之が爲に連絡や情況承知の關係などが餘り不自然にならぬやう職務の振り分けに注意を要する。場合により某職員を統裁官が兼ねることもある。特に演習の推移を統裁官の思ふ様にする爲に大綱を決する上級指揮者を統裁官が兼ねることが必要な場合も屢々である。

四六、各職務を擔任する演習員は成る可く實際の状況に合する様に同一場所に居るべき者は同一場所に、そうでない者は離れた場所に位置せしめるのが理想である。同一室内にある場合でも離るべきものは席を別にするのがよい。

四七、情況は各演習員が其の立場に於て知り得べき事項だけを個別的に時間の経過に従つて知らせる。即ち圖上訓練では纏めた情況を全員同時に知らせるのであるが、此の點兵棋は大いに趣を異にして居るのである。

情況を承知した演習員は統裁官の課題などを待つことなく自發的に自ら處置すべきものは處置し

又所要に應じて關係者に通報報告などをする。

通報報告など演習員相互の連絡は統裁官指示して關係者統裁官の前で立會ひ、又は任意之を實施せしめるのであるが、勉めて實際の情況に即した方法や、時間的關係に於て實施させる。即ち文書とするものは文書で、口頭とするものは口頭でといったやうにするのがよい。

連絡報告等によつて狀況を知つた職員は之に基き必要の處置をなし、此の様に於て連絡し乍ら業務を進めて行くのである。

決心や處置は演習員の自發的行動に俟つのであるが、中々圓滑には進まぬものである。演習員が慣れない場合に於て特に然りである。之が爲統裁官は情況の進むに従ひ、演習員に何をなすべきやを質し、次いで其の處置を求めるやうなことも必要である。場合によつては統裁官が命じて其の處置を求めることもある。特に統裁官が或る研究問題を企圖して居る時など然りである。

四八、情況は統裁官の計畫せるものを基礎とし、演習員の處置によつて更に之に應ずる情況を加味しつゝ進めて行くのである。現場の情況は兵棋圖に於て其の變化を現はし、統裁官は現場の職務にある演習員を兵棋圖の所へ呼び出して逐次情況を示すのであるが、此の情況には演習の各職員がとつた處置を考慮し、其の結果が加味して現はされなければならぬ。即ち演習員の處置が悪かつた

り手落があつたりすれば、情況は不利な方向に進めて行くし、處置がよければ情況は好轉させて行くわけである。勿論演習員が豫想した通りの結果が常に現はれて來るわけではなく、同一の處置でも他の錯誤撞著や突發的の事情によつて色々の結果が生れるので、此の邊を統裁官は適宜加減し乍ら逐次情況を變化作爲して行くのである。

四九、演習時間の推移は成るべく實際の時間關係に置き、色々の處置なども實際通りの時間内にやらせるのがよい。併し逐次情況を示し又綿密に各方面を指導して居る場合には時間通りに行かぬことが多く、價值の大なる研究問題のある場合には特に多くの時間をかけ十分間の事を一時間で研究するといふこともある。之に反し特別に研究問題や重要な處置もないといふ場合には某時間迅速に端折つて推移させることもある。

五〇、兵棋では演習員各個に別々の事を實施して居るので、或る情況で全般的に研究することが出來ぬ。之が爲統裁官は計畫的に或は現はれて來た情況に應じ適宜に全般的に價值のある研究問題を捉へ全員に同一情況を示し、問題を課して研究することもある。此の場合に於ける研究實施の方法は圖上訓練の時に準ずる。

演習員の實施した處置に對し、如何に其の適否を知らしめ之を教育して行くかといふことは統裁

上大いに考慮を要することである。演習の途中で餘り注意を與へて指導すれば、演習の活氣、演習員の興味は減殺せらる虞があり、其の場に於て注意を與へなければ機を失して效果の少いやうなこともある。之等を適宜調節し乍ら訓練の目的を最大に達するのは一に統裁官の技倆に存するのであるが、通常は一般的事項も後で纏め講評すると共に演習中重要な件に關し教育の機會を失せざる爲必要に應じ其の都度指導を加へつゝ實施する。此の場合情況の推移により演習員をして自ら其の處置の適否を悟らせる方法があることを忘れてはならぬ。即ち統裁官は演習員の過失、手落などがある場合直ちに注意することなく、其の結果を情況として逐次に現はし自然に其の非を悟らせるやうに工夫しなければならぬ。之は最も巧みな指導なのである。

五一、兵棋では多數の演習員が夫々異つた處置をなし、而も之に應じて情況を作爲して行かなければならぬので一人の統裁官では出來ない。之等の關係を明らかにし時間の推移に應じ各方面の情況を圓滑に進める爲、所要の助手をとることが必要である。簡単な情況は適宜助手をして演習員に示させることもある。

其の八、現地訓練

五二、防衛の最後は現地の活動であり、之が爲現地での訓練は極めて必要である。現地でも幹部のみの訓練と實員を指揮しての實際其の儘の訓練とがあるのであるが、先づ基礎的には幹部のみの現地訓練が必要である。

五三、現地訓練實施の一般要領は圖上訓練と大體同様で只圖上にて研究するのを現地に於て行ふだけである。現地訓練では圖上訓練に比し研究の範圍は限定せられるが一層具體的に且深刻に研究することが出来る。

五四、現地訓練に方つては、專習員に現地を偵察させねばならぬ。之が爲左の事項に注意を要する。

- 1 現地偵察の方法は成るべく實際の狀況に即したものとす。即ち火災の狀況などでは實際接近し立入り得べき地域が限定せられるので其の地域から現地を視察しむることなども考へねばならぬ。併し場合によつては此の如き顧慮なく自由に偵察せしむることもある。
- 2 偵察の爲の時間は實際の狀況に即した時間に限定することもあるが、通常餘裕を與へて綿密に研究せしめるのがよい。
- 3 偵察の方法、順序なども考へさせることが必要である。實際の場合現地の狀況を確めるに方り

其の成果は偵察の方法や順序の巧拙に關することが大である。場合によつては目的を先づ決め偵察の順序方法などを豫め研究してから實施に移らしめることも必要である。

4 偵察の爲の移動も成るべく實際に取るべき方法とするのが理想ではあるが、交通機關や訓練時間との關係等で、必ずしも其の通りには出來ない。

5 偵察の實施を各人とするか合同とするか等も訓練の目的に應じて決めなくてはならぬ。

五五、統裁に方つては專習員の案を基礎とし問答對論により研究すること圖上訓練と同様であるが、現地訓練では現地の點檢と、統裁地點を何處にするかといふことに考慮を要するのである。

現地訓練では現地に於ける各種の關係を十分研究することに重點を置かねばならぬ。之が爲專習員の案を對究するにも忠實に現地に當つて見る必要がある。現地點檢の範圍、順序或は一地點で大觀するに止めるかなどもよく考へねばならぬ。又統裁者は統裁を何處で實施するかを豫め決めて置くことが必要である。研究に關係ある地域が成るべく一望の裡に收め得られる様な高い所がよ。

五六、現地訓練に於ては現地の特性に即する研究を十分ならしめなくてはならぬ。之が爲研究問題も自ら現地現況に應ずる處置などを重點とし決心とか命令とか通牒とかいふやうなものは勉めて

室内の圖上訓練に於て十分訓練すべきである。現地訓練に際し決心とか情勢判斷とかいふやうなものを現地での研究に對する準備として豫め圖上に於て研究することもあるが、其の時間は勉めて少くし成るべく多くの時間を現地の研究に宛てる著意が肝要である。又其の答解は現地との關係を一見明瞭にし且統裁に便ならしめる爲要圖で求めるのがよい。

五七、現地の研究に方つては現地と地圖との對照に著意せしめることが必要である。實際に方り幹部としては必ずしも常に現場に臨み得ず圖上で處置するを要するものも少くない。此の際圖上でよく現地の實感を描き出し適切な處置をなし得るか否かは平素現地と地圖とを對照し其の關係をよく把握して居るか否かに懸つて居るのである。

五八、現地訓練は夜間も行ふことが必要である。現地の感じ現地の情態把握は夜間と晝間とは著しい差異がある。而も防衛は夜間をも重視しなければならぬので、是非夜間に於ても適確に業務が遂行出来るやうに此の訓練が必要である。

五九、現地訓練に方つては專習員の移動或は天候の關係などで實施圓滑を缺き且死節時を生じ易いものである。豫め之等に關し十分に計畫準備して置くことが必要である。

其の九、幹部實設演習

六〇、幹部實設演習は關係機關の幹部を實設し統裁部の付與する情況に基き各機關が實際の通り自給的に連繫協同し有機的に活動して演習を實施するのである。實際の場合と異なるのは現場第一線の實員が動かないこと、情況が統裁官によつて現はされるといふことだけで幹部は情況に應じ總ての業務を實施するのである。

此の演習は防衛機關の活動を實施的ならしめ價值極めて大なるものであるが統裁は廣汎で多くの統裁部職員を必要とする。

此の演習は圖上又は現地に於て實施する。

六一、演習の爲如何なる範圍の機關を實施するか又機關に於ける幹部實設の程度を如何にするかなどは演習の目的、演習員の數などにより差異があるが相互連絡して業務を進めるに必要な程度とすることが必要である。

實設しない機關の業務で演習に關係あるものは所要に應じ統裁部が處理する。又各機關に於ける幹部には演習の職を命課しておくこと兵棋の通りである。

六二、各機關を如何に配置するかは演習の規模、施設、統裁の難易等によつて決める。

統裁部が密接に連絡し統一的指導を容易にし且所要に應じ演習員全部に注意などを與へ演習の進行を圓滑にする爲には各機關同一建物内にあることが便である。此の場合には各機關毎に室を分つて配置する。各機關が建物を別にし更に實際の配置其の儘で演習を實施すれば統裁は困難になるが演習は一層實際的となり其の價值を増大する。各機關の職員は兵棋の場合に準じて配置するのである。

六三、各機關相互の連絡施設は勉めて實際通りにするのがよい。通信施設のあるべきものは之を利用して連絡し得るやうに單に傳令などによるべきものは夫れに應ずるやうにするのである。之が爲同一家屋内で實施する場合にも各機關の間に電話施設をする方がよい。蓋し電話で連絡するのと口頭で連絡するのとは其の實情が著しく異なるからである。

現在の配置其の儘で實施する時には現在の連絡施設手段を其の儘利用すべきである。

六四、各機關に與ふる情況を如何に準備するか又之を如何に付與するかは演習實施上最も考慮を要すべき事項である。想定は全般共通で豫め一般に知らせで置かねばならぬ。

情況は各機關毎に其の知り得べき情況を時刻を逐うて付與するのである。其の付與方法も勉めて

實際の場合のやうな例へば電報、電話、文書、口頭等の手段方法を考へ之に應ずる形式で而も實務上の入手経路に従つて実施するのがよい。之が爲め計画的に付與すべき状況を交付時刻、付與方法、交付先等を明瞭にして豫め各機關毎に準備しておくことが必要である。此の状況は各方面に於て齟齬のない様に計畫に於て十分打合せて置くことが必要である。

交付時刻に就て注意を要するのは或事象の發生が情報として或る機關に到達するには其の立場、連絡機關の状況、各種の障碍などによつて某時間を要するといふことである。之が爲或る情報にしても之を演習員に知らせる即ち状況交付時刻は此の時間経過を十分考へて決めなければならぬのである。

六五、第一線の現場機關に状況を示し又其の處置に應じ状況を推移せしめる爲には兵棋を利用するのがよい、此際現場機關が實際知り得ないやうな他方面一般の状況迄を兵棋圖の上で知つて了つてはならぬ。之が爲實際に知り得べき範圍外は適宜之を判らせないやうにし成し得れば機關毎に兵棋を別にするのが理想である。

六六、各機關には所要に應じ統裁部の補助官助手を配置する。其の業務は大體次の如くである。

1 統裁官と絶えず密接に連絡し演習全般の状態と承知しつゝ演習實施を規正し且其の圓滑なる進

捗を圖る。

2 豫め準備せる所に従ひ時刻を逐うて其の機關に對する状況を與へる。

3 情況に基く演習員の處置を承知し之を指導する。之が爲

イ、處置に應じて直ちに其の結果を知らすべきものは統裁官と連絡し又は適宜裁決して之を演習員に通告する。此の際勉めて情況として現はして行くことが必要である。

ロ、他機關に連絡せんとするものは其の處置を検討し之が實施を指示する。

ハ、他機關より連絡ありたる場合には其の事情を承知し實施を指示する。

ニ、演習員をして常に積極的に活動せしむるやう指導する。

ホ、演習員の實施状況を觀察し講評資料を集むると共に所要に應じ機に投じて注意を與へ演習員を教育する。

助手は演習員の處置、其の實施並に之に關聯する情況の推移を整理して演習指導の資となすと共に統裁部内の連絡に任ずる。

六七、演習員は統裁部より與へられる情況並に關係方面よりの連絡などに基き自發的に所要の處置をする。其の處置に基き逐次情況は發展し統裁部其の他關係の機關から次々へと新しい情況が連

絡せられ演習員は更に之に基いて處置をする。此の如くにして演習は進行して行くのである。

處置に方つては文書、電話其の他の連絡機關等によつて命令、指示、通牒、報告など各般の業務を實際の場合のやうに處理するわけである。

演習員の處置は統裁部の補助官に申出で其の指示により實施する。

六八、各機關の連絡は左の如く實施せしめる。

1 文書によるもの

演習員は起案した文書に宛名、傳達法（徒歩傳令、自動車、自轉車）傳達経路、傳達所要時間を附記し補助官に提出する。

補助官は各般の状況を考慮し送達の能否、滞遅の度等を裁決し到達時刻を記入し助手をして宛名機關の補助官に届けしめる。送達を受けた補助官は豫定の到達時刻に於て演習員に交付する。

現地に於て所要の傳令員等を実設しある場合には、助手を使用することなく實際通り送達せしめる。

2 電話によるもの

演習員は其の要旨を補助官に申出で補助官は適宜指示して演習員に之を實施せしめる。

2 電 報

電信施設を直ちに利用し得る機關は電話に準ずる。然らざるものは起案せる電報に對し補助官電信輻輳の状況等を設想して到達時刻を定め第一項文書送達に準じて處理する。

4 連絡者派遣又は指揮官等直接對手機關に至り實施する口頭連絡

演習員は出發時刻、経路、利用すべき交通機關、所要時間等を具して補助官に申出で補助官は到達時刻を裁決指示し演習員を對手機關に至らしめる。

演習員移動の爲行動間は業務を離れ成し得れば他の室等に待機せしめ到着時刻に於て對手機關に至らしめるのである。

演習員對手機關に至れば補助官に其の旨を告げ其の指示に従ひ連絡する。

歸還に關しても往路と同様に行ふ。現地に於て實際配置の儘實施する場合には演習員を實際通り移動せしめればよい。

六九、演習は實際の時間推移に従ひ時刻を逐うて情況を進めて行くのである。併し餘り業務もなく閑散な時などには一様に規正して時間の経過を短縮することもある。此の際或る部分では閑散でも他の方面では業務が輻輳して居るといふやうな場合もあるので指導上注意を必要とする。

七〇、統裁部は演習員の處置に應じ如何に情況を推移せしむべきやに就き常に考案し所要に應じ次々と情況を作爲して演習を指導して行くのである。大部の情況は第一線に於て具體的に進め之を通して逐次上級の機關を活動せしめるやうにするのがよい。

演習員の處置に對しては各種の支障を設想し常に豫期通りに進捗せしめないやうなことも必要である。實際には各種の錯誤障があるもので此の波瀾を勉めて起させるやうにするのである。

七一、演習終了後全般の演習經過を一般に説明すると共に統裁官は各場面の所見をも集めて講評し所見を述べるのを通常とする。演習の教訓を生かして訓練の成果を大にすることは常に忘れてはならぬのである。

其の十、實 員 指 揮

七二、實員指揮は幹部に指揮すべき實員を附し實際的防衛指揮をなさしめるものである。理論的研究や圖上にての應用訓練などを如何に實施しても結局は机上のものに過ぎず實員を動かして完全なる活動が出来なければ實際の役には立たぬのである。

實員を指揮すれば人と人との關係即ち統御の問題が生じ又混雜、錯誤、情況不明等に基く防衛活

動の制肘等机上では到底出来ないことを體驗し深刻に之を鍊磨し得るのである。只實際の場合に於ける危険、慘烈の状態を體驗し得ないだけで他は實際の通り實施し得るわけで特に第一線の行動をする幹部には十分此の訓練を積ましめなくてはならぬ。

七三、實員指揮の訓練では想定などは單純でよい、情況は勿論進歩するに従ひ困難にしなければならぬが要は實員指揮の「コツ」を體得せしめるのであるので目的以外強いて複雑ならしめる必要はなす。

六ヶ敷い決心や情勢判斷などは圖上訓練其の他で十分訓練すべきである。

七四、場面を徒に擴大することなく且深刻に訓練することが必要である。擴大な場面に而も複雑な情況で演習員が只右往左往して、何等深刻に體得するものがないといふやうな訓練は價值が少な
5.1

七五、統裁部の職員配置を適當にし演習實施を深く觀察せしめ適切な教育資料を得ることが必要である。此の爲にも演習の範圍は成るべく局限した方がよい。

七六、演習の途中で專習員に注意を頻繁に與へることは氣勢を殺ぐので多くは演習終了後注意を與へて教育するのであるが、必要に際しては演習を一時打切り所要の注意を與へて續行せしめ又は

同一情況で反復實施するなどのことも必要である。

七七、情況現示は實員指揮に於て最も困難な事項で之が爲に統裁者は十分なる計畫と準備とを必要とする。情況現示者によく訓練の目的を理解させて置くことが必要である。

七八、專習員多數の場合には實際指揮する專習員は限定せられるので、他の專習員にも常に研究の態度を失はしめぬやうにし、又演習終了後徹底せる研究を行ふことが必要である。

第四、むすび

以上各種教育法に就て其の實施概要竝に若干の注意事項等を申述べたのであるが決して一定の型に捉はれてはならぬ、又實施に方つては各教育法を混用する場合も少くない。例へば現地訓練中に圖上訓練を混ぜたり、現地訓練と實員指揮とを連繫させたりするのであるが要は專習員をして十分理解體得せしめるにある。之等の工夫は一に教官、統裁官の技倆に存するのであるが特に必要なのは其の熱意である。專習員を何とかして防衛に役立たせなくてはならぬといふ旺盛なる熱意こそは各種の工夫を生むのである、又專習員に對しても常に精神鍛鍊を重視し特に熾烈なる責任觀念、不屈不撓の敢闘精神を涵養するに勉めなくてはならぬ。

計畫準備の周到なることは統裁官として最も必要なことであるが徒に研究、訓練項目を多くし不徹底に終るといふことは一般に陥り易い弊害であることを注意しなければならぬ。時間の關係を顧慮し研究、訓練課目を限定して十分徹底せしめるやうに常に考慮を要する。

製本控

何第號

973函

282號

年

月

日

書名防空新書

(中)

著者

受入

20年

7月

3日

冊

備考

電話號碼(5)1214-1214

昭和二十年二月一日印刷
昭和二十年二月五日發行

定價(稅込)三十錢

編者 財團 大日本防空協會
發行者

印刷者 青田 伊祐

印刷所 東京都神田區旅籠町二ノ二
廣業館印刷所
(會社登記
東京八〇二)

發行所 東京都麴町區永田町一ノ一七
財團 大日本防空協會
法人
電話銀座(67)一八二五・一八二六

973
5
282

973
282



